

「学校林・遊々の森」
全国子どもサミット in 京都



もくじ

はじめに	3
------	---

プログラム	4
-------	---

開催にあたって	5
---------	---

各小学校の取組（森林体験活動発表）

① 北海道 札幌市立 駒岡小学校	8
② 北海道 幌加内町立 朱鞠内小学校	11
③ 宮城県 仙台市立 愛子小学校	14
④ 山梨県 北杜市立 明野小学校	17
⑤ 長野県 松本市立 寿小学校	20
⑥ 長野県 松本市立 本郷小学校	23
⑦ 愛知県 岡崎市立 生平小学校	26
⑧ 愛知県 岡崎市立 秦梨小学校	29
⑨ 愛知県 豊田市立 西広瀬小学校	32
⑩ 福井県 あわら市 波松小学校	35
⑪ 滋賀県 日野町立 南比都佐小学校	38
⑫ 京都府 京都市立 金閣小学校	41
⑬ 京都府 長岡京市立 神足小学校	44
⑭ 京都府 木津川市立 棚倉小学校	47
⑮ 大阪府 能勢町立 歌垣小学校	50
⑯ 大阪府 岬町立 淡輪小学校	53
⑰ 兵庫県 神戸市立 北須磨小学校	56
⑱ 奈良県 奈良市立 吐山小学校	59
⑲ 山口県 美祢市立 於福小学校	62
⑳ 香川県 高松市立 屋島東小学校	65
◆ 森林体験活動発表の講評	68

サミット当日の様子

1 日目（8/6）森林体験活動の発表会 ＆ナイトウォーク	70
2 日目（8/7）自然体験活動	72

特別講演・講話

特別講演「森と人とのつながり」 京都教育大学教授 山下宏文	74
----------------------------------	----

講話和「“無数のものに感謝する気持ち”を大切に」 清水寺 英玄録事	78
--------------------------------------	----

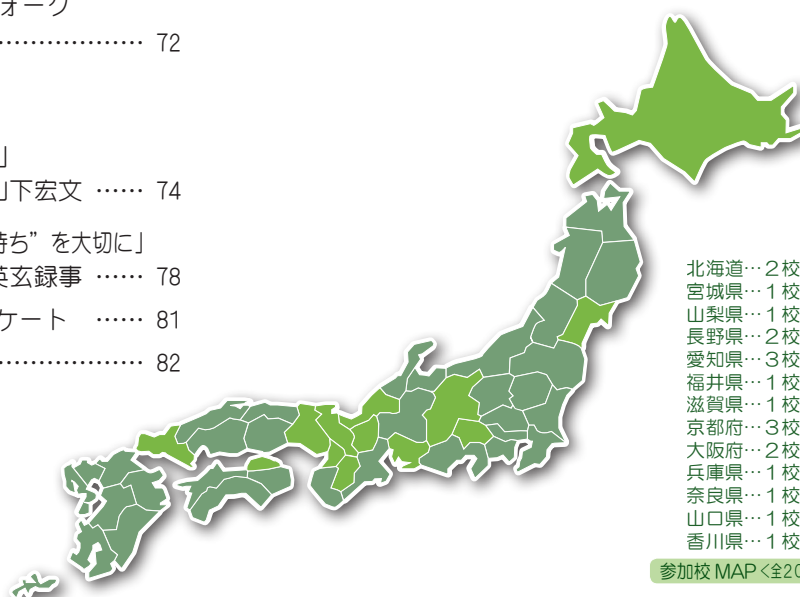
◎ 参加者からの感想 及び アンケート	81
◎ 各新聞社 掲載記事	82

各実行委員会（組織）の取組

① 京都森林インストラクター会	84
② 公益財団法人 オイスカ	85
③ 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会	86
④ 京都伝統文化の森推進協議会	87
⑤ 京都府農林水産部 モデルフォレスト推進課	88
⑥ 京都市林業振興課	89
⑦ 林野庁	90
⑧ 近畿中国森林管理局	91

協賛企業の取組

① 一般財団法人 セブンイレブン記念財団	94
② 住友林業 株式会社	96
③ 三井ガーデンホテルズ	97
④ 公益財団法人 ニッセイ緑の財団	98
⑤ アジア航測 株式会社	99
⑥ 国土防災技術 株式会社	100
⑦ 日本コカ・コーラ 株式会社	101
◆ 協賛企業広告	102



北海道…2校
宮城県…1校
山梨県…1校
長野県…2校
愛知県…3校
福井県…1校
滋賀県…1校
京都府…3校
大阪府…2校
兵庫県…1校
奈良県…1校
山口県…1校
香川県…1校

参加校 MAP <全20校>

はじめに



「学校林・遊々の森」全国子どもサミットの目的

「学校林・遊々の森」は、子どもたちが自らの行動で学び体験する活動が行われる学習・体験活動の場です。

「学校林・遊々の森」全国子どもサミットは、この活動の取組を広げていくことを目的として、平成 19 年度に東京都八王子市で開催したのが始まりで、20 年度の熊本県熊本市、21 年度の高知県香美町、22 年度の秋田県八峰町、23 年度の長野県松本市に続き、今回で 6 回目となる 24 年度は京都府京都市で開催しました。

『「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 京都』では、13 道府県（北海道・宮城県・山梨県・長野県・愛知県・福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・山口県・香川県）から 20 小学校の児童や先生方、一般参加者など約 200 名が参加し、子どもたちの学習・体験活動の発表や自然体験活動などを行い、これらの情報発信を通じて、森林づくりの大切さの輪を全国に広げていこうとするものです。



学校林とは

明治時代に、森林の造成を通じ、青少年の林業教育、学校の基本財産の造成を目的に設定されました。

平成 18 年度時点で、全国の小学校、中学校、高等学校のうち、3,057 校において、約 2 万ヘクタールが設定されています。

学校林活動は、木材価格の低迷等による林業不振や学校カリキュラムの見直しにより、停滞していました。

最近になって、総合的な学習の時間の導入により、環境学習の場として、学校林活動が見直されつつあります。しかしながら、全体では各学校単独での活動にとどまり、地域的な広がりには欠けているのが現状です。

学校林活動を多くの学校に広げ、継続的に展開していくためには、学校同士の横のネットワークと地域社会、NPO 支援が課題と考えられます。



遊々の森とは

総合的な学習の時間などにおいて、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、平成 14 年創設された制度です。森林での学習活動、体験活動に国有林のフィールドを提供するために、学校等と森林管理署等の間で協定に基づいて運営されています。

自然観察、昆虫採集などの森林学習のほか、社会や理科、音楽などの授業、植林・間伐などの体験作業、野外ゲーム、ツリーハウスなどの森林の遊びの場として、継続的な利用が可能です。

平成 23 年度末現在、全国 1 75 箇所が設定されています。



日 時：平成 24 年 8月6日（月）～7日（火）

場 所：京都府京都市東山区 知恩院宿坊 和順会館
高台寺山国有林



8月6日（月） 知恩院宿坊 和順会館

13:00 ～ 13:20

開会式

13:20 ～ 17:10

森林体験活動発表会

（各小学校による活動発表）

17:10 ～ 17:50

森林体験活動発表の講評：

「森と人とのつながり」

京都教育大学教授 山下宏文

修了式



19:00 ～ 19:45

ナイトウォーク

（知恩院周辺の約 1 km）



8月7日（火） 高台寺山国有林

8:00 ～ 11:00

自然体験活動

11:00 ～ 12:00

講話：

「“無数のものに感謝する気持ち”を大切に」

清水寺 英玄録事

閉会式



開催にあたって



「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 京都 実行委員会
会長 篠部 幸雄

本日は暑い中、全国各地からお集まりいただき、ありがとうございます。
ここに第6回「学校林・遊々の森」全国子どもサミットを京都で開催するにあたり、歓迎の意を表すとともに一言ご挨拶致します。

今、会場の周囲を見渡してください。知恩院の三門がそびえ、背後には東山の山並みが連なっている。いかにも京都らしい景色となっています。我々の会は京都各地で環境学習などの支援を行っていますが、明日の体験活動ではここから清水寺まで東山を一緒に歩きますので、楽しみにしておいてください。

京都市は、森林率74%と大都会としては高い森林率を占めます。京都は794年の平安京の遷都以来1,200年の長い間、都として続いてきましたが、それを支えてきたのもこの森林及び、それが育んできた水があったからこそと言えます。

ほんの数十年前までは、森林と街は建材・エネルギーの「出し手」と「受け手」という形で、密接に結びついていました。それが現代は見えにくい時代となっています。ところが京都では寺院・神社の本山等の巨大な木造建築物だけでなく、町家を中心とする伝統的な街並みなど、木を中心とした文化の形を色々と見るができます。いかにその伝統を支える技術を伝え、景観を守ること、そして森を守ることが必要なのかを学んでもらえればと思います。

さて、現在は生活が一段と自然とかけ離れた時代となっており、子どもの心身のバランスのとれた発達のためには、森林環境学習・体験学習が、より必要な時代であろうと考えます。また、子ども時代に自然体験を重ねることによって、次の世代にその体験を受け継いでもらえることが大いに期待されます。ここで発表いただく小学生の皆さん、あるいは先生方は全国各地の学校林や遊々の森等で、そのことを実践されています。

この場で各学校の日頃の成果、あるいはこれからしたいことなどが聞けるのは大いに楽しみです。また、他の学校の発表を参考にし、今後の活動に活かしてもらうことを希望しています。

では、この2日間が皆さんにとって思い出深い学習・体験になることを期待して、挨拶とさせていただきます。



近畿中国森林管理局
局長 前川 泰一郎

皆さんこんにちは。私は近畿中国森林管理局局長の前川と申します。

森林管理局というところは、どういう仕事をしているかと申しますと、国が持っている森を管理することが仕事です。

今日のサミットは今回で6回目になります。第1回目が平成19年に東京で始まりまして、毎年皆さんのお友達が発表していただいています。

さて皆さんは、京都に来て気づいたことはありませんか。少し視線を遠くに移して見ると京都は大都会ですが、北と東と西が全部森に囲まれて自然に恵まれた場所だということが分かります。

しかし、100年位前の京都の山はどこへいっても皆はげ山でした。それを皆さんのお爺さんよりもっと前の世代の人たちが、一生懸命木を植えて今のような京都の風景をつくりあげたわけです。

それでは、なぜ京都がはげ山になったかを考えてみたいと思います。昔の京都では、木を非常に使っていました。もちろん、木は家を造る以外にも、薪に使うことが一番の大きな木の役割でした。また、森に生えてる草を肥料の代わりに畑や田んぼに入れていた、ということがあります。このように森は、人々の生活に密接に関係していました。

それでは、今の森林はどうでしょう。こんなに木がいっぱい生えて喜んでいるかというと実は非常に今の森も問題を抱えています。それは、木が小さな苗木のうち良かったんですが、だんだん大きくなると広い場所が必要になる。今、広い場所が必要になっているんです。森には、細い木がいっぱいできています。昔ほど人が木を必要としなくなったと言うことがあると思います。

皆さんの活動というのは、これからも続くと思いますが、この活動を皆さんがするだけでなく、皆さんのお友達にも森や木について関心を持って貰いたい。どんどん木を使っていただきたいと思っています。色んな形で木を使っていただく、あるいは関心を持っていただく、そういう活動一つ一つが日本の森を生き返らせ、元気にすることになると思います。

それでは、これから20校の皆さんに発表をしていただきたいと思います。最後になりましたが、今日発表していただける小学生の皆さん、それからご指導いただいている先生方、また、見守っていただいているご父兄の皆様方に感謝を申し上げますとともに、日本の森が元気になりますように祈念をいたしましてご挨拶とさせていただきます。



